

映画館や飲食店に安堵の時間の到来を

東日本大震災は、被災地から離れた地域にもさまざまな影響をもたらしている。

先週、作家の渡辺淳一氏のお供で、故郷の鹿児島に出向いた。国際プロチミススト鹿児島が主宰するチャリティー文化講演会の講師に、渡辺氏を紹介した関係での里帰り。会場の宝山ホールは1200人の満席。渡辺氏は「幸せ上手」の演題で、変わらぬ話術で笑いも取って大受けだった。



鹿児島県

人は、桜島や新燃岳の噴火に伴う地震で、子供の時から火山灰の降灰や揺れに慣れていた。少々の異変には驚かない。

しかし今回は鹿児島も二次災害的なダメージを受け、特に観光地やホテルは大打撃。九州新幹線も全線閉通。内外からの観光客の来県を期待していた矢先で、出はなをくじかれたと異口同音に嘆いていた。

場所は変わって東京。気分転換に元気の出る映画をと、見逃していたボクシング映画

「サ・ファイター」を有楽町マリオンで見た。

残念ながら客席はまばら。でも映画は満足のいくサクセスストーリーだった。同じビルにある焼き肉店の叙々苑に。顔見知りの店長との世間話の話題は震災後の客足に飛ぶ。相場の打撃のよつで、特に銀座地区の飲食店がひどいそうだ。しばらくはパート従業員の時短をするなど、コスト減でしのぐと店長は唇をかんだ。

そういえば、叙々苑は新宿と浦和でも映画館を併設するビルに店を構えている。

新宿は中央東口の武蔵野館のあるビルの7階。300坪のフロアの大型店舗だが、銀座に比べると客足は

好調だという。浦和パルコ店には、6階にユナイテッドシネマのシネコン。そして叙々苑は5階に。映画館と飲食店はシナジエ効果を発揮するといわれる。

こちらも客足は鈍くないと聞きホッとした次第。良い映画を見た後、カフェやレストランでストーリーや背景、俳優の演技を語らうことは至福の時。

地震の揺れや停電を気にせず、映画館の暗がりに没頭する2時間を過ごせる日が待たれてならない。